

理研会報

発行
印 教 研 理 科 研 究 部
事 務 局
成 田 市 立 成 田 小 学 校
成 田 市 幸 町 9 4 8 - 1

教 研 参 加 報 告 出 口

小倉台小 吉野 信之

白子大会以来の県教研参加。勝浦の磯の散策も楽しみにしていたのだが、あいにくの空模様の中、印旛教育会館を出発した。

全体会に引き続き、午後から勝浦小にて分科会が始まった。各支部のテーマを基に三つの柱にわかれ提案。各支部のテーマを記し、感じたことを述べていきたい。

一 の 柱

直接的体験を取り入れた学習指導のあり方（一日目午後）

①体験を重視した指導法のあり方
海水を使った塩づくりを取り入れた五年「ものをとくさそう」の実践。素晴らしい体験学習であったと思う。（船橋支部）

②自ら進んで学習する子を育てる学習指導はどうあるべきか
五年「動物や人の誕生」の学習を、ビデオ・模型・図書等豊富な資料を準備し実践。羨ましい限りであった。（君津支部）

③児童が意欲を持って学習に取り

組む工夫

器具の扱い方等の基礎・基本を重視し、試行活動の場を保障した素晴らしい提案。（千葉支部）

④生物への興味・関心を高める理科指導のあり方
動植物を関連づけた実践。児童ノートにその成果が現われていると講師評。（印旛支部）

二 の 柱

主体的に取り組む理科学習のあり方（二日目午前）

⑤子ども一人ひとりが主体的に取り組む理科学習
六年「水溶液の性質」で、自由試行と情報交換の場を単元全体に保障し、児童の主体性を大切にしたい提案。（安房支部）

⑥理科学習において、自己学習力を育てるにはどうしたらよいか
児童の考えを可能な限り生かそうと努力。絵図や文で、のびのびと表現された児童ノートが印象に残った。（東総支部）

⑦児童一人ひとりの主体的な問題

解決活動を重視した理科学習
四年「ものの重さと天秤」で実践。指導計画に「自由実験タイム」を設定し、児童の主体性を大切にしていた。（山武支部）

⑧一人ひとりが生き生きと取り組む学習指導の工夫
児童の発想を生かすために順序選択学習や複線型の指導を取り入れた提案。これからの指導法の一つであろう。（香取支部）

三 の 柱

地域の自然を生かした理科指導のあり方（二日目午後）

⑨一人ひとりが意欲的に取り組む理科学習のあり方
「養老川にメダカをかんそう」と、地域環境と関連させたことにより、児童の川に関する意識が高まっていた。（市原支部）

⑩地域の自然を見つめる理科学習
六年「土地のつくり」の学習で、順序選択学習を取り入れ実践。恵まれた地域の自然をうまく活用していた。（夷隅支部）

⑪地域の自然を見つめ、生命を大切にする児童の育成
地域の池に目を向け、バックテストやウキクサを使った水質検査等、水野環境を取り入れた「メダカの成長」の提案。この学習が児童を通して家庭にも広がりが、水に対する関心が高まったそうである。（長生支部）

紙面の都合で、講師評まで報告

できないが充実した二日間であった。共に参加された有田・星・宮本先生、研究を支えた三部会理科研究部の仲間たち、及びこのような機会を下さった皆様に感謝し、報告とさせていただきます。

桜台中 関 奈緒美
県教研では、本年度のテーマ①よくわかり生徒に楽しさを持たせる指導はどうあるべきか、二地域の自然を踏まえ、正しい自然観を育てる理科指導はどうあるべきか、をもとに十支部よりレポートが提案させ、四つの討議の柱に沿って話し合いがなされた。

①教材教具を活用した効果的な指導のあり方
身近な素材である電池の分解を化学の導入として取り入れることにより、学習意欲を持続させる工夫について討議が行われた。また、コンピュータのアドバイザー的活用が提案されたが、疑似体験をより有効に活用するためには実験がもとになっていなければならないと討議された。教材教具は一つの手段であることを忘れないようになければいけないと助言者からの発言があった。

②生徒の意欲・関心を引き出すための指導と評価のあり方
必修理科での物理化学分野において選択実験を行うこと、生物分野では、意欲に持続のために観察技能の指導、学習計画、教材の検討が必要であるという提案がなされた。

③学習指導要領の問題点にかかわること、及び自主的な教育課程の編成のあり方
課題解決学習の方法として、選択学習のあり方について話し合いがなされた。導入において、学習の目的を明確にすることが意欲につながるという討議された。課題選択については、選択する力を育成することも必要であると助言者からの指摘があった。

④身近な自然を生かした指導のあり方
身近な自然という教材をどこに見つけ、そのフィールドで何を指導するのかという視点で討議された。助言者から、植物や動物はその生活と結びつけてとらえさせることが大切であると意見が出された。

助言者から今後の課題として、次の二点があげられた。
・生物学的視点を入れた生物教材を検証していくことが環境学習に近づくことになるとするならば、各地区における「身近な自然」について、教師自身が近づいていくことが大切である。
・「楽しい理科」をめざした提案が多く出されてきているので、実践者である教師の横の情報交換を活発にし、今後さらに授業の質を

高めていくことを期待する。
◇参加しての感想
初めて参加した県教研では、各地区がその地域の自然や特色を生かした実践を行っているのが印象的でした。集団討議あるいは共同研究されてきたレポートが多く、各支部の横のつながりを感じさせました。その中でも印旛の提案は、地域の教員が一丸となって取り組んでいる共同研究として高い評価をいただきました。今回提案した三部会の、授業の中に研究発表会を取り入れた実践も、今まであまりみられなかったもので、今後さらに研究をしていくものであると、みんなで取り組んできたことがこのように評価されたことは大きな喜びです。

県内の理科の先生方の理科教育に対する熱意あふれる実践に触れ、多くのことを学びました。学んだものを今後の実践の中に生かしていきたいと思えます。このような貴重な機会を与えて下さった諸先生方に心から感謝します。

今号では、県教研への参加報告を掲載いたしました。
次号は、先生方の実践報告を掲載していきたいと思えます。

編集後記
印教研 理科研究部事務局
☆投稿等につきましては、各支部会部長にお尋ね下さい。

す。